NO １６９　　２０２２年2月3日

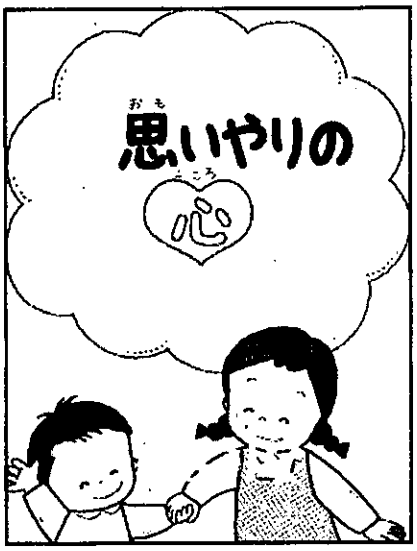
１学年だより

夢の宅配便

１年学年主任
水野　真代治

ＩＴ学年とアナログの優しさ

昨日の６時間は、１組・２組・３組で一斉にクロムブックを使って英語の授業をしました。クロムブックから流れる同じ教材の動画を見ながら、８６名で授業を進めました。最初は、どうなるのか少し心配でしたが、授業がスタートすると何の混乱もなく一生懸命に授業を受けていました。今年度から本格的にスタートしたクロムブックの授業は、教室にいなくても、学校に登校をしていなくても授業が受けられる画期的なものだと思います。

１年生は小学校の時からＩＴ教育を受けているので、クロムブックなどの扱いに慣れていて、学年集会ではグラフを作成して学年の生活の現状を分析したり、毎日の連絡を情報委員が教室のモニターを使って伝達したりしています。このように、ＩＴ機器を使った教育が日常となって行くと思います。

今日、１組で地理の授業をしていると、リモートで受けている友達に対して黒板の字が見えやすくなるようにクロムブックの角度を微調整しながら授業を受けている生徒がいました。教室に登校できなくて家庭でリモートで授業を受けている生徒がスムーズに授業が受けられるように気を配っていることに感心しました。また、授業の後に、「先生、今日の授業の内容をドキュメントに記録しました。」と言って来た生徒がいたので、「それは、他人に配信できるの？」と聞いたら「はい、出来ます。必要な人に配信します。」と答えてくれました。本当に便利だなと思いました。どんどん教育教材や機材は発達していきます。しかし、１組の生徒のようにリモートを受けている人が黒板を見えやすくなるように角度を微調整したり、授業の内容をドキュメントにまとめて、リモートに入れなかった生徒に配信してあげようとする気持ちは、どんなに世の中がデジタル化されても、大切な「優しさ」の心だと思います。デジタル社会がいかに進んでもデジタルでは表現できないアナログの「優しさ」は、温もりをあたえてくれます。先端のＩＴ教育がコロナ禍で行われ広がっていく中でも、社会のスタイルがどんなにデジタル化されても、人への優しさは失われることはないのだと１組の生徒を見て思いました。